

うすめばる稚魚の種苗化試験（予報）

大 島 展 志

1. は じ め に

うすめばるの稚魚が美保関町の笠浦地先の定置網に5月中旬頃から6月中旬頃に入網し、漁獲量は500～1,000kgと多い状況にある。このものは、ハマチ餌料として利用されているに過ぎない。このため、これら稚魚の種苗化をはかるために飼育試験を行ったのでその結果を報告する。

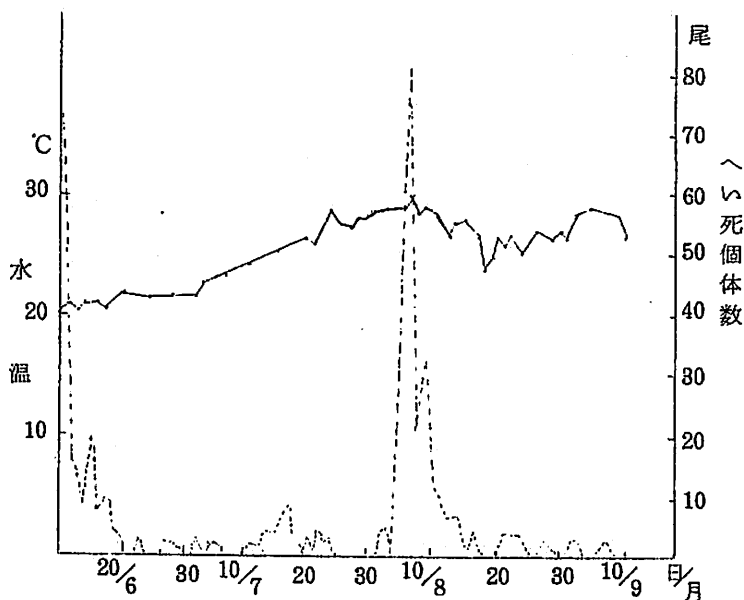
2. 材料および方法

稚魚は昭和50年6月9日に笠浦沖の定置網で採捕されたもの約515尾を用いた。これら稚魚はポリ袋に収容し酸素を封入して當場まで運んだ。飼育は屋内で行ない、6月9日から7月2日までFRP水槽1トンを使用し、7月3日から2トン水槽へ移し海水の掛流しを行ない、これに送気を行なった。餌料はイワシ・アジのミンチ肉を与えた。

3. 結 果

飼育開始時の大きさは全長平均4.95cm、体重平均1.19gであった。これら稚魚は尾部に損傷や切断しているものが多い状況にあったので、アイペット（5ppm 6時間薬浴）で3日連続消毒した。又、経口投与として、水産用サイアジンをミンチ肉に混入し3日間連続与えた。飼育期間中の水温とへい死状況は第1図に示した。

へい死は収容当初に損傷魚のへい死が多かった。次いで



第1図 うすめばる飼育水槽の水温とへい死状況

7月16日からへい死がやゝ多くなったので、サイアジンを8日間経口投与しへい死を防いだ。7月24日から水温が27～28℃と上昇するに伴って摂餌しなくなり、8月4日から14日まで多量へい死が続出し、9月7日で全死した。摂餌は飼育開始時からよく行なったが高水温と共に鈍化した。

成長は第1表に示した。成長は摂餌がよいため成長が良好であり、特に体重の増加が大であった。

第1表 うすめばるの成長

月 日	全 長 (cm)		体 重 (g)	
	平 均	範 囲	平 均	範 囲
6. 9	4.95	3.8 ~ 5.4	1.19	0.5 ~ 1.8
7. 15	6.05	5.4 ~ 6.4	3.58	2.1 ~ 4.6
8. 5	6.01	5.8 ~ 7.4	4.62	3.3 ~ 6.6

4. 考 察

うすめばるの飼育は水温が27℃以上になる場所での飼育は困難であり、飼育対象としての種苗化は困難と思われる。これら稚魚は夏期は水温27℃以下の深所へ移動し越夏するものと思われる。これら稚魚が5月中旬～6月中旬頃に大敷網に入網する要因として、冬季に出生した稚魚が、藻場などで育ち、成長に伴って遊泳活動が盛んになり、適温を求めて移動するものと思われ、その移動時期が入網時期になるものと推察される。うすめばるは価格も高価であるため、これら稚魚の漁獲を規制し、資源の保護をはかる必要がある。そのために大敷網の網目の規制、又は入網した場合には放流を義務づける必要がある。種苗化をはかる方法として沖合で水温が低い中～下層での網生養養成を行なうことが考えられる。

5. 摘 要

1) うすめばる稚魚の種苗化試験を行なったが、水温27℃以上でへい死が続出し、種苗化が困難であった。

2) 種苗化を図る方法として、水温27℃以下で養成することが考えられた。